特243
972

時局と思想戰

（陸軍少將高橋省三郎閣下講演の一部）

昭和十三年二月

櫻苍倶樂部

2

0003229000

0003229-000

特２４３－９７２

時局と思想戦

高橋省三郎・〔述〕

桜蒼倶楽部

昭和１３

ABA

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２３日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

特243
972

公刊の辭

本稿は去る一月二十三日本倶樂部總會の席上名譽顧問高橋省三郎少將閣下の述べられた講演の一部を筆記し、謄寫に代へ印刷に付したものである。

閣下の内外時局に對し、透徹せる見識を有せられることは夙に衆知の通りであるが、時局多端の折柄かゝる一家言を傾聽するを得たるは吾人の最も嬉びとするところである。

こゝに二月十一日を期し、國民精神總動員週間の實施さるゝに當り、この至言を獨り胸底の秘むるを惜しむの餘り廣く社會に紹介して、天下同憂の士に愬へんの情切なるものあり。こゝに公刊

の機を得たるを欣び、併せて同閣下の御健勝を祈り深甚の敬意を表するものである。

昭和十三年二月

櫻蒼倶樂部

時局と思想戰

櫻蒼倶樂部總會の席上で、會員各位に時局に關する御話を申上げ得ますことは私の頗る欣幸とする所であります。

政府は去る一月十六日、聲明を出して、對支將來の方針を明らかにせられました。又一月二十二日近衛首相は、議會での施政方針演說で、帝國の進まんとする所を明らかにし、國民の覺悟を促がされました。吾人國民たるもの、事變の長期に亘るべきことに更に思を致し、愈々堅忍持久、百難を克服し、所期の目的達成に勇進せねばなりません。

扨て、事變の長期に亘るといふことは、蔣政權の長期抵抗が、其根原をなすのであつて、蔣政權をして、かくならしめることは、

其裏面に在つて活躍する怪物の仕業に胚胎するものゝあるを。見逃してはならぬのであります。このことは、とくに、各位の御了知のことゝ思ひますので省略することゝし、其中で、思想戰といふ見地からコミンテルンの活動に就てのみ、極めて概要を述べて見たいと思ひます。

コミンテルン（國際共産黨）及其指導下に在る各國共産黨主義勢力は、非常な勢を以て東洋に侵入し、支那に對しては、早くから相當の成功を收めたのであります。蔣介石は、當初之を取り入れながら爾后轉向し、西安事變頃までは、中國共産黨を溫床とする共産軍の討滅に苦辛したのでありました。帝國に在つては、曾ては、或程度の浸潤を受けたのでありましたが、滿洲事變を契機として勃興しました日本主義の爲に、頓に凋落したのであります。

西洋では、伊太利、獨逸などに早くから、潮の如く、流れ込み、伊太利は、全然共産化するのではないかとさへ思はれたのでありましたが、ムツソリーニの出現に依つて救はれ、獨逸では、ナチス政權の擡頭に依つて、ドイツ共産黨は殆ど潰滅するに至つたのであります。此日本、獨逸に於ける挫折は、遂に、昭和十年夏、モスクワで開かれたコミンテルン第七回世界大會での決議を生ましめるに至つたと見えるのであります。即ち、赤化策戰を從來のやうに、理論的、高踏的且爭鬪的な、而も非合法的に尖銳的階級意識を煽動する風な方法を改めて、具体的で且彈力性ある仕方、即ち、合法らしく、又各國の事情に即應したものとし、第二インターナショナル系の社會民主々義的團体であらうが、民主々義乃至自由主義的な團体であらうが、何であつてもよろしい「反フア

ツショ」「反帝國主義戰爭」を標榜する有ゆるものを結合し、東では日本、西では獨逸、波蘭（後に伊太利）を敵として、之を各個に擊つの萬略を決定したのであります。即ち、人民戰線統一運動といふのは是であります。

そこで、日本に對する策略としては、支那を踊らすことであります。抗日を對日方針として、盛んに活躍してゐた蔣政權を抱き込む方策であります。之は遂に、西安事變で、うまく成功致しまして、今度の事變にまで導いてきたのであります。彼れは、支那を日本に叩きつけて、日本の戰力を消耗せしめ、あはよくば、英、米、佛等をも、日本の敵に廻はし、日本の苦境に乘じて、最後の武力行使をやらうと考へてゐるらしいとのことであります。支那事變開始後は、コミンテルンは直に次の如き積極的活動を開始し

たといはれてゐます。

一、コミンテルンは滿洲に於ける黨員に指令し、軍資武器を給與して共産匪の增强を圖る。

二、一萬の全滿鐵從業員の怠業を煽動する。

三、中國共産黨を通じ、蔣介石に次の內容を提議した。

1　2　略

3　滿洲、朝鮮及日本の共産黨と協同して、日、滿、鮮內に暴動を起す。

4　在支日本紡績會社等に暴動を起す。

今迄公表せられてゐる主なものが、右のやうなのでありますが、尙吾人の知らない幾多の謀略が、ひそかに講ぜられてゐるのであらうことは推察に餘りがあるので、誠に恐ろしいことゝいはねば

なりませぬ。殊に、最近の思想攻撃の方法は前述の如く、眞正面から私有財産制打倒、ブルジョア撃滅などといふ非合法的且資本主義國家の反感を抱かしめるやうなことは止め、一般大衆に要望せられ得る見込のある。而も夫が知らず、識らずの間に共産主義化せしめられるやうな、陰險な戰術を用ふるので、寧ろ、極めて危險性を包藏してゐるに注意を要するのであります。事變が永續し、諸種の困難、苦痛が增して來た時、益々激しくなると豫想せられる外からの思想攻撃……コミンテルンのみでなく各方面からの……に對し、斷乎として之に對抗し、之を撃退せねばならんと存じます。歐洲大戰で、獨逸が滿四年以上に亘り、異常な苦難に堪へ得たに拘はらず、遂に、敗北の悲運に陷つたのは、聯合國及蘇國の思想攻撃に抗し得なかつたのが、其一の理由であつた、と

聞くにつけても、大に、前車の戒とせねばならぬことであります。

今や、帝國重大方針は確立し、近く國民精神總動員第二次强調週間が行はれんとしてゐます。此時に方り、精神總動員の根本ともいふべき國體明徵の徹底、日本精神の昂揚に就ては、確乎たる信念を養成保有せねばならんと存じます。茲に日本精神に就て一言したいことは、日本精神を、眞に理解、體得することであります。此精神は單に、日本人の共通精神の總てと見るべきでなく、萬邦無比な、尊嚴な國體から湧出する日本人特有の精神であります。從て、我が歷史には、到る所澎湃として、此精神が波打つてゐるのであり、現に、今次事變に於ても、我國民特に、戰場の將兵各位に依つて發揮せられつゝあるのであります。此の精神が、吾人の血液中に流れてゐる以上、更めて言擧げしなくてもよいので

ありますが、確乎たる信念を涵養するには、明確な認識を必要とするので、今蛇足ながら日本精神の眞諦に就いて一語を費したいと思ひます。之を一言で申せば、部分である國民が、洪大無邊、且永遠無窮な全體にまします。

天皇様に歸一し奉る心構へ、信仰であります。

天皇様は　皇祖、皇宗の神裔にましまし、我が國民、國土の生成、發展の本源、源動にあらせられるので、國民は　天皇様の御稜威の光明に浴するにあらざれば「無」なのであります。從つて國民は一すじに、　天皇様の御爲に盡し奉ることが日本人として生きる途であり、人生としての意義を達成し得るのであつて、之が日本人としての人生觀であり、日本精神の眞髄であります。

かるが故に、　天皇様の御爲の、犧牲、沒我、滅私は、實は、最高の我の發揮であつて、之こそ、皇運を翼賛し奉り得る途なのであります。所謂、小我に死して大我に生きることなのであります。戰場で、將兵が、些の私利私慾を考ふることなく、唯々　天皇様の御爲に、一死以て御奉公申し上げつゝあることは勿論、銃後國民としても幾多の美談を出し、全精神を傾け、有ゆる物、財を必要に際しては悉く、君國に捧げんと決意しあることは、長き間に自然に養はれた日本精神の發露であります。

而も此日本精神は、日本のみの獨斷なる、固陋な排他的なものでは斷じてありません。何となれば、皇國の嚮ふ所は、八紘一宇であり、世界の大平和建設であるからであります。即ち、東洋平和を確立し、依て以て世界の平和に貢献し、世界人類の福祉を増進せんとするに在りまして、國民の此遠大崇高な大道德を行ふことが

日本精神であり、從つて、古今に通じて謬らず、中外に施して悖らぬ公正妥當なものであるからであります。吾人は、日本人としての人生觀に即する此日本精神をはつきりと確認し、自信を以て之を修養し、體得すると共に、此精神に統合せられた衆心の結束に依り、今後如何に惡辣な他國の思想攻撃を受くるも、毅然として、之を克服し、國難の打開に勇往し、所期の目的遂行に邁進せねばなりません。

特に、本倶樂部員各位は、本會の目的に稽へ愈々和協一心、各自の業務に奮鬪し、皇國使命の遂行に寄與せられんことを祈る次第であります。

【不許複製】

昭和十三年二月十七日發行【非賣品】
大阪市浪速區稲荷町二丁目九二二（櫻川ビル内）
發行人　江口惣三
大阪市浪速區稲荷町二丁目九二二（櫻川ビル内）
發行所　櫻苔倶樂部　電話櫻川二三三二番
大阪市西區南堀江二番町
印刷所　稲仁印刷所